

厚生労働省 令和4年度子ども・子育て支援推進調査研究事業
一時保護所職員に対して効果的な研修を行うための調査研究

子どもの事故防止 1

子どもの発達段階に応じて起きやすい事故の特徴・種類について把握することで、入所児童に事故がないよう職員が自律的に子どもに声掛け等ができるようになること及び事故発生時の各種応急手当を適切に行えるようになることを目的とします。

目次

発達段階に応じた子どもの安全に係る留意事項	3
幼児期の心身の安全	4
小学生の心身の安全	5
中学生の心身の安全	6
高校生の心身の安全	7
幼児期ごろまでの発達段階で起こりやすい事故	8
窒息・誤飲事故	10
水まわりの事故/やけど事故	11
転落・転倒事故	12
挟む・切る・その他の事故	13
自動車・自転車関連の事故	14

目次

各種応急手当の方法例えば、子どもの様子をどのように記録するか	15
事故発生時の初動対応	16
心停止の救命措置	17
頭頸部外傷への対応	18
熱中症への対応	19
食物アレルギーへの対応	20
歯・口の外傷への対応	21
目の外傷への対応	22
異物を飲み込んだときの対応	23
打撲・ねんざの対応（RICE処置）	24
出血・火傷の対応	25
救急要請のポイント	26

発達段階に応じた子どもの安全に係る留意事項

幼児期の心身と安全



Point !

- 幼児期には視機能、聴覚機能が発達するが、身長が低い、危険の経験が少ないことから、子ども自身による危険の発見が遅れてしまいがちのため、大人の視点だけでは危険を見落としがちにすることに注意が必要です。
- 幼児期初期には「これは危ないから近づかない」という指示でよいが、発達に伴い「なぜ危ないのか」を説明することが必要です。

心身と行動の特徴

安全に関する 正の特徴

- 危険察知に重要な視機能・聴覚機能が発達する。
- 供応動作（目で対象を捉えることと体の動きが順応する動き）が発達し、危険物を察知して、危険からの被害を回避する動きをとることができるようになる
- 原因と結果の関係を理解することができるようになり、「ストーブを触ると火傷する」という危険を具体的に理解できるようになる

安全に関する 負の特徴

- 危険の経験が少ないため、初めて出会う危険について察知できない
- 自己とは異なる他者の視点が不十分であるため、自分の視点からしか危険を捉えることができない。
- 身長が低いことから大人と物理的な視点・視野が異なるため、危険の発見が遅れがち
- 適切な回避行動についての経験・知識が少ない

幼児期の子どもへの安全教育の留意点

- 遊具の安全な使い方、危険な場所での安全行動、安全についてのきまりの遵守など、生活安全や交通安全の課題ごとに、**具体的な場面で、具体的に何をすべきかを教育する**
- 危険を発見したり、他者の事故やケガに遭遇した場合には、周囲の**大人へ即座に通報することができるように教育することも重要**
- **周囲の大人が安全な行動をとる模範となる**
- 幼児期初期は図や映像などを活用した**視覚的教材が有効**。なお、幼児期後期では言語による児童も効果が出るようになる。

(参考) 渡邊 正樹：学校安全と危機管理 三訂版、大修館書店、2020、pp35-38

小学生の心身と安全

💡 Point !

- 運動能力の発達が進み、安全に行動するための身体面の基礎が築かれていきますが、同時に行動範囲も広がり危険に遭遇する可能性も高くなることから、自分自身で安全な行動を選択できるようになることが重要です。

心身と行動の特徴

安全に関する 正の特徴

- 運動能力の発達が進み、安全に行動するための身体面の基礎が築かれる
- 小学校低学年では、幼児期に比べて衝動的な行動は減少する
- 学年が進むにつれて、自分の行動とその結果の関係を理解して適切な行動をとることができるようになる
- 規範意識が高まるため、安全教育の効果を上げやすい

安全に関する 負の特徴

- 行動範囲が大きく広がり、大人の目の届かないところで危険に遭遇する可能性も高くなる
- 高学年になると、中には心の問題を抱える子どもも現れ、精神的な不安定さから対人暴力や器物損壊を引き起こし、場合によっては大きな事故・災害につながる危険性もある
- 生活習慣の規則性が高学年に向かうにつれ乱れるようになり、例えば寝不足などで日常生活の注意が散漫になるといったことが起こり得る

小学生への安全教育の留意点

- 行動の原因と結果に係る因果関係の理解が容易になることから、子どもたちの経験を共有して身近な危険に気づき、危険や災害に関する知識を増やしていくことが効果的
- 大人が安全行動のモデルとなり、規則を遵守するなどして範を示す
- 子ども自身以外の人々の安全、特に家族や年少者、高齢者の安全を慮れるようになることを目指した指導を行うことも必要

(参考) 渡邊 正樹：学校安全と危機管理 三訂版、大修館書店、2020、pp38-39

中学生の心身と安全



Point !

- 社会規範の少々の逸脱を許容する傾向が高まり、仲間集団への帰属感を高めるために試し行動的に危険行動を行う傾向が見られるようになります。
- 安全に行動する根拠をしっかりと示すこと、加害者になり得ることの危険性について教育することが重要です。

心身と行動の特徴

安全に関する 正の特徴

- —

安全に関する 負の特徴

- 小学校・高校に比べていじめや暴力行為の発生件数が高く、問題行動を含む危険行動の可能性が高まる
- 社会ルールに反する行為に対して許容する傾向が強まる
- 仲間外れをおそれ、仲間の前であえて危険なことを冒すことによって仲間からの注目を集めたり、仲間集団への帰属感を高めようとする傾向が見られるようになる

中学生への安全教育の留意点

- この時期の危険行動は探索行動すなわち「試してみる行動」に留まり、そのまま大きく逸脱し継続的な危険行動に至るのは一部であると考えられるが、自分や他者を傷つけ、時に死に至らしめる可能性がある行動である場合は、自他の生命の尊重が大切であることと無謀な行動が引き起こす結果を正しく伝え、安全に行動することの根拠を示すことが求められる。
- 事件・事故の被害者になるだけでなく、加害者になり得る危険性についても学ぶ必要がある。

(参考) 渡邊 正樹：学校安全と危機管理 三訂版、大修館書店、2020、pp40-41

高校生の心身と安全



Point !

- 精神的に落ち着きが見られる時期ではあるが、日常生活の活動範囲がさらに広くなり、事件・事故に巻き込まれる機会は増える
- また、日常経験の不足や自身の能力への過信から事件・事故を引き起こす可能性もある。

心身と行動の特徴

安全に関する 正の特徴

- 身体発育が安定し、中学生時から比べて精神的にも落ち着きが見られる

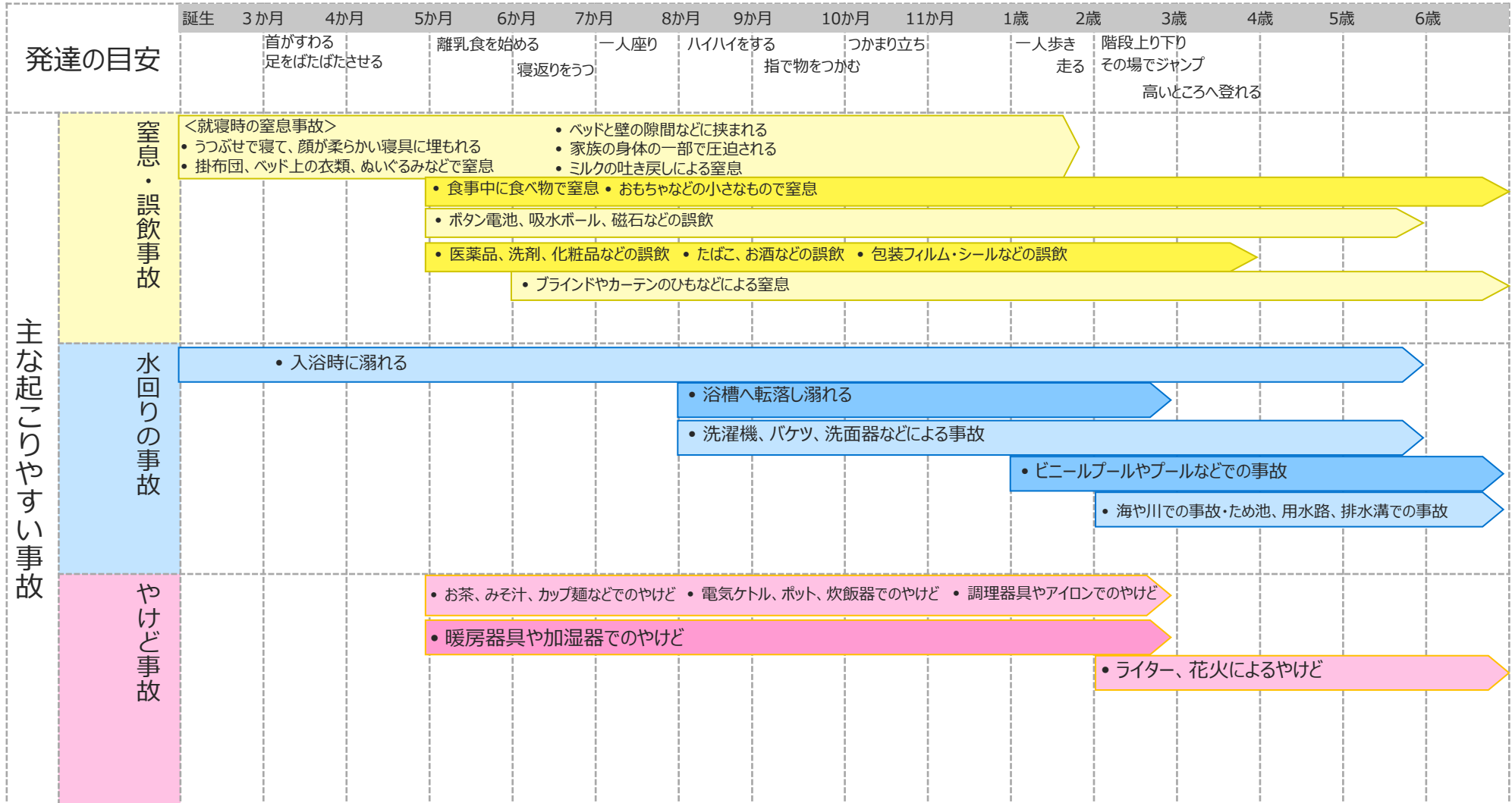
安全に関する 負の特徴

- 日常生活の活動範囲がさらに広くなり、事件・事故に巻き込まれる機会も増えてくる
- 多様なスポーツを行うようになり、それが原因となって傷害・障害を引き起こすことも少なくない
- 日常経験の不足や自分の能力への過信が事件・事故の引き金となる可能性がある

高校生への安全教育の留意点

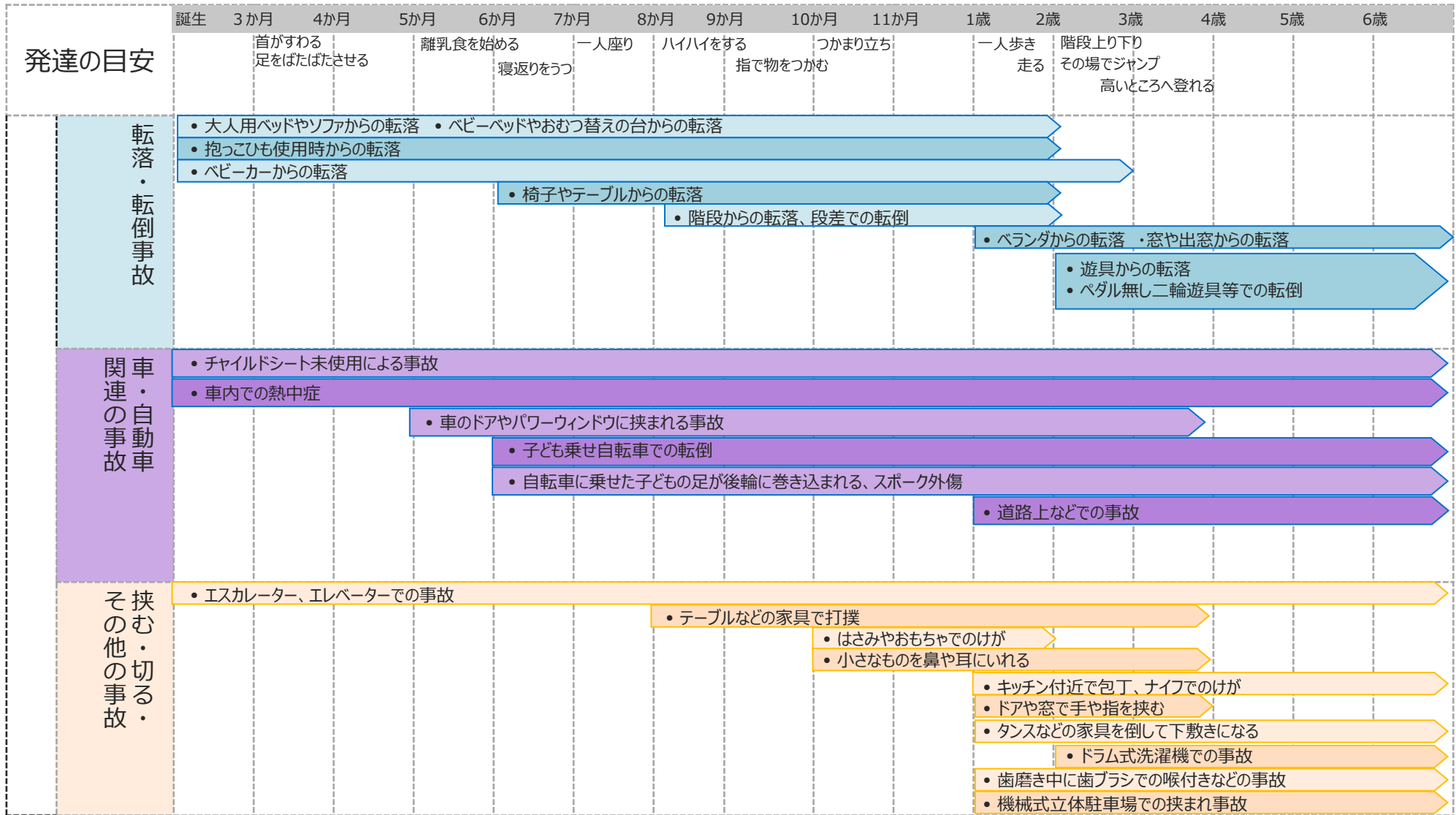
- 中学までの安全教育を発展させながら、社会の安全確保についての視点、責任の自覚に至るように導く

幼児期ごろまでの発達段階で起こりやすい事故



(参考) 消費者庁『子どもを事故から守る！事故防止ハンドブック』

幼児期ごろまでの発達段階で起こりやすい事故



(参考) 消費者庁『子どもを事故から守る！事故防止ハンドブック』

窒息・誤飲事故

就寝時の窒息事故

0歳~1歳くらい

できるだけベビーベッドを利用することで、多くの事故を避けることができる可能性があります。

うつぶせで寝て、顔が柔らかい寝具に埋もれる

【注意ポイント】

- 大人用ベッドではなく、できるだけベビーベッドに寝かせ、敷布団やマットレス等の寝具は硬めのものを使用しましょう。
- 1歳になるまでは、寝かせる時は、お向けに寝かせましょう。



掛布団、ベッド上の衣類、ぬいぐるみ、スタイ(よだれかけ)で窒息

【注意ポイント】

- 掛布団は、子どもが払いのけられる軽いものを使用し、顔にかぶらないようにしましょう。
- 寝ている子どもの顔の近くに、口や鼻を覆ったり、首に巻き付いたりする物は置かないようにしましょう。



ベッドと壁の隙間などに挟まれる

【注意ポイント】

- 寝ている間に動き回り、大人用ベッドと壁や後付け柵の隙間などに頭や顔が挟まるなどしないよう、できるだけベビーベッドに寝かせましょう。
- 大人用ベッドに取り付ける幼児用ベッドガードは、生後18か月未満の乳幼児には絶対に使用しないでください。



家族の身体の一部で圧迫される

【注意ポイント】

- 寝かしつけの時に、添い寝をして意図せず寝込んでしまう、また同じ寝具で就寝している際に大人の身体の一部で圧迫してしまわないように、できるだけベビーベッドに寝かせましょう。



ミルクの吐き戻しによる窒息

【注意ポイント】

- 授乳した後は、げっぷをさせてから寝かせるようにしましょう。

ブラインドやカーテンのひもなどによる窒息

0歳~6歳くらい

【注意ポイント】

- ひもが首に絡まらないよう、子どもの手が届かない所にまとめましょう。
- ソファなど、踏み台になる物をひもの近くに設置しないようにしましょう。
- ひも部分がないなどの安全性の高い商品を選びましょう。



包装フィルム、シールなどの誤飲

0歳~3歳くらい

【注意ポイント】

- 菓子やペットボトルの包装フィルムを口に入れたり、かじったりしていると破片を誤飲・誤えんして、窒息することがあります。また、年上の子どもとの遊んでいるシール・パッケージについているシール等も同様です。
- 包装フィルムやシールがついている物、容器などで遊ばせないようにしましょう。



医薬品、洗剤、化粧品などの誤飲

0歳~3歳くらい

【注意ポイント】

- 医薬品や洗剤などの誤飲は、重大な症状を引き起こすおそれがあります。
- 医薬品、食品と見た目が似ている洗剤や化粧品、入浴剤などは、子どもの目に触れない場所や、手の届かない場所に保管しましょう。



たばこ、お酒などの誤飲

0歳~3歳くらい

【注意ポイント】

- たばこやお酒の誤飲は、ひどい中毒症状が出る場合があります。
- たばこやお酒は、子どもの目に触れない場所や、手の届かない場所に保管しましょう。



ボタン電池、吸水ボール、磁石などの誤飲

0歳~5歳くらい

【注意ポイント】

- ボタン電池の誤飲は、食道に詰まったり胃の中にとどまったりすると重症事故につながります。ボタン電池を利用している器具は、電池が取り出せないようカバーを固定しましょう。
- 樹脂製の吸水ボールの誤飲により、腸閉塞などを起こすことがあります。
- 複数の磁石の誤飲は、磁石が腸壁を挟んでくつき消化管穿孔(消化管に穴があくこと)や腸閉塞などを起こすおそれがあります。



これらの物は子どもの手の届かない、見えないところに保管しましょう。

食事中に食べ物で窒息

0歳~6歳くらい

【注意ポイント】

- パン、カステラ、こんにやく、キノコ類、海藻類、ゆで卵、肉などは、1cm程度まで小さくして与えましょう。
- 球形の食品(プチトマト、ブドウなどの果物、鮎、チーズ、うずらの卵など)は、吸い込みにより窒息の原因となります。4等分にして、ブドウなどの皮は除去してから与えましょう。
- いか、エビ、貝など噛みきりにくい食材は0、1歳児には与えないようにしましょう。気管・気管支に入りやすい豆・ナッツ類は、5歳以下の子どもには食べさせないようにしましょう。
- 食品を口に入れたまま遊んだり、話したり、寝転んだりさせないようにしましょう。また、泣いている子どもをあやそうとして、食品を食べさせるのはやめましょう。



おもちゃなど小さな物で窒息

0歳~6歳くらい

【注意ポイント】

- 年上の子どものおもちゃには、小さな部品が含まれていることがあります。対象年齢になるまでは、子どもの手の届かない所に保管し、遊ばせないようにしましょう。
- おもちゃの購入時や利用時は、商品の対象年齢を必ず守りましょう。



(出所) 消費者庁『子どもを事故から守る! 事故防止ハンドブック』

水まわりの事故/やけど事故

入浴時に溺れる

0歳～5歳未満

【注意ポイント】

1. 大人が洗髪する際には、子どもを浴槽から出しましょう。
2. 浮き輪の使用中でも溺れる事故が発生しています。保護者が目を離す状況で使用するのはやめましょう。
3. お風呂から上がる際には、子どもを先に浴槽・浴室から出しましょう。



浴槽へ転落し溺れる

0歳～2歳未満

【注意ポイント】

1. 子どもが浴室に入ってしまう、浴槽をのぞき込み転落し、溺れることがあります。
2. 入浴後は、浴槽の水を抜き、浴室には外鍵を付けて子どもが入れないようにしましょう。



洗濯機、バケツや洗面器などによる事故

0歳～5歳未満

【注意ポイント】

1. 使用後の洗濯機、バケツ、洗面器に水を溜めたままにしないようにしましょう。
2. 洗濯機にはチャイルドロックをかけて蓋を開けられないようにしましょう。



ビニールプールやプールでの事故

1歳以上

【注意ポイント】

1. 水深の浅い場所でも、子どもが溺れてしまうことがあります。
2. プールで遊ぶ時は、必ず大人が付き添い、子どもから目を離さないようにしましょう。



海や川での事故

2歳以上

【注意ポイント】

1. 子どもだけで海や川などで遊ぶことがないように注意しましょう。
2. 遊ぶ時はライフジャケットを着用させ、必ず大人が付き添うようにしましょう。



ため池、用水路、排水溝、排水溝、浄化槽での事故

2歳以上

【注意ポイント】

1. ため池、用水路、排水溝、浄化槽など、転落や溺れの可能性がある危険な場所に気付いたら、管理者へ柵の設置等を要請しましょう。
2. 危険な場所で遊ばないよう日頃から話しておきましょう。



お茶、みそ汁、カップ麺などでのやけど

0歳～2歳未満

【注意ポイント】

1. 子どもの手が届かないように、高温の飲み物や汁物をテーブルに置くときは中央に置き、また子どもを抱っこしたまま扱わないようにしましょう。
2. テーブルクロスやランチョンマットは、子どもが引っ張って、その上の載った容器を倒す原因になりやすいので使わないようにしましょう。



電気ケトル、ポット、炊飯器でのやけど

0歳～2歳未満

【注意ポイント】

1. 電気ケトルなどにつかまり立ちをしたり、コードを引っ張ったりして倒してしまい、熱湯を浴びてやけどをすることがあります。
2. 電気ケトルやポットは倒れても中身がこぼれない製品を選びましょう。コードもきめ子どもの手の届かない場所に設置しましょう。
3. 炊飯器から出る蒸気に触れてやけどをすることがあるので、キッチンのレイアウトを見直し、子どもの手の届かない位置に設置しましょう。



暖房器具や加湿器でのやけど

0歳～2歳未満

【注意ポイント】

1. 床に置くタイプの暖房器具は、子どもの手が届かないよう安全柵などで囲みましょう。
2. 湯たんぽや電気カーペットなどは、長時間皮膚が同じ場所に触れて低温やけどをすることがあるので、長時間使用しないようにしましょう。
3. 加湿器から出る蒸気に触れたり、加湿器を倒して熱湯を浴びたりしてやけどをすることがあります。加湿器は転倒しても熱湯がこぼれない製品を選び、使用時は、ベビーゲートを活用しましょう。



調理器具やアイロンでのやけど

0歳～2歳未満

【注意ポイント】

1. フライパンやなべなどの調理器具は、調理中だけでなく調理後も高温のことがあるので、子どもに触れさせないようにし、取っ手は奥に向けましょう。キッチンにゲートを設置して子どもがキッチンに入れないようにしましょう。
2. アイロンやヘアアイロンを使用する際は子どもを近づけないようにし、使用後はコードをきめて、子どもの手の届かないところに置き、なるべく早く片付けましょう。



ライターや花火でのやけど

2歳～6歳未満

【注意ポイント】

1. 花火をする際は、燃えやすいものがなく、広くて安全な場所で行い、子どもだけで遊ばせないようにしましょう。説明書をよく読み、注意事項を必ず守りましょう。
2. 使い捨てライターによる火災事故防止のため、子どもが操作できないような幼児対策（チャイルドレジスタンス）機能が施された、PSCマーク（※11ページのトピックス参照）付きのライターを使用し、子どもの手の届かないところに保管しましょう。



(出所) 消費者庁『子どもを事故から守る！事故防止ハンドブック』

転落・転倒事故

大人用ベッドやソファからの転落 0歳~1歳未満

【注意ポイント】

1. 子どもは寝ている間も寝返りをしたり、動きまわったりして、ベッドから転落し、頭部などにけがをすることがあります。軟らかすぎるクッションなどは窒息のおそれがあるため、転落防止のためであっても周りに置かないようにしましょう。
2. 寝かしつけの時に、添い寝をすることは多いと思いますが、2歳になるまでは、できるだけ大人用ベッドは使わないようにしましょう。またソファで寝かせないようにしましょう。



ベビーベッドやおむつ替えの時の台からの転落 0歳~1歳未満

【注意ポイント】

1. ベビーベッドを使用する時は、常に柵を上げて使用しましょう。
2. ベビーベッドやソファ、施設にあるおむつ交換台などの高さのある場所でおむつ替えをする時は、事前に準備し、片付けやゴミ捨ては子どもを降ろした後にしましょう。備え付けのベルトを使用しても確実な転落防止にはなりません。



椅子やテーブルからの転落 0歳~1歳未満

【注意ポイント】

1. 椅子や子ども用ハイチェアの上で立ち上がった後、座ってテーブルを蹴ったりしないようにしましょう。
2. ハイチェアの安全ベルトは、必ず締めましょう。
3. 椅子で遊ばないようにしましょう。



階段から転落、段差での転倒 0歳~1歳未満

【注意ポイント】

1. ハイハイをする頃から、階段からの転落が起きるので、転落防止の柵を付けて、閉め忘れのないようにし、子どもが開けられないようにロックを掛けましょう。
2. 玄関の段差での転倒や、そのほかにつまづきやすい段差がないか注意しましょう。



ベランダなどからの転落 1歳以上

【注意ポイント】

1. ベランダを子どもの遊び場にしないようにし、子どもだけでベランダに出ないように注意しましょう。
2. ベランダから身を乗り出すと転落する危険があることを教えましょう。
3. ベランダに植木鉢、椅子などの踏み台になるものを置かないようにしましょう。エアコンの室外機は手すりから60cm以上離して設置するか、上からつらしまししょう。
4. 子どもだけを家に残して外出することは避けましょう。



窓や出窓からの転落 1歳以上

【注意ポイント】

1. 窓に補助錠やストッパーをつけて、大きく開かないようにしましょう。
2. 窓の近くにベッドやソファなど踏み台になるものは置かないようにしましょう。
3. 網戸に寄りかかると破れて転落するおそれがあるので、窓を開ける幅を制限できない場合は、網戸に寄りかかれないよう柵を設置しましょう。



抱っこひも使用時の転落 0歳~1歳未満

【注意ポイント】

1. 抱っこひもの使用時に、物を拾うなどで、前にかがむ際は、必ず子どもを手で支えましょう。
2. おんぶや抱っこをする時や、降ろす時は、低い姿勢で行いましょう。
3. パックル類の留め具や、ベルトのゆるみ、子どもの位置など、取扱説明書を読んで、正しく使用しましょう。



ベビーカーからの転落 0歳~2歳未満

【注意ポイント】

1. ベルトは必ず、正しくしっかりと締めましょう。
2. 段差に引っかかったり、重い荷物をぶら下げていることでバランスを崩したりして転倒することがあるので、注意しましょう。
3. ベビーカーで電車やバスに乗る時は、周囲の状況に注意し安全を確認しましょう。



ショッピングカートからの転落 1歳~2歳未満

【注意ポイント】

1. ショッピングカートの上に子どもを立たせたり、ショッピングカートで遊ばせたりないようにしましょう。
2. ショッピングカートの幼児用座席以外に子どもを乗せないようにしましょう。
3. 注意表示等をよく確認して、安全に使用しましょう。



遊具(すべり台、ジャングルジム、ブランコなど)からの転落 2歳以上

【注意ポイント】

1. 施設や遊具の対象年齢を守って、遊ばせましょう。
2. 6歳以下の子どもは、大人が付き添い、目を離さないように注意しましょう。
3. ひもやフードのない服装で遊ばせましょう。
4. かばんは置いて、水筒やマフラーなど引っかかる物は身に付けないで遊ばせましょう。
5. 遊具ごとの使い方を守らせ、ふざけてほかの子どもを突き飛ばさせないように教えましょう。



ペダルなし二輪遊具、キックスケーター等で転倒 2歳以上

【注意ポイント】

1. 子どもが足で蹴って進むペダルなし二輪遊具や、キックスケーターは、道路交通法上、交通量の多い道路では使用できません。
2. 必ずヘルメットや膝・肘にプロテクターを着用させ、いつでも止まれる速度で使用するなど、正しい乗り方を教えましょう。
3. 坂道や転落の可能性がある場所、濡れて滑りやすい場所などでの走行も大変危険ですので絶対にやめましょう。



(出所) 消費者庁『子どもを事故から守る！事故防止ハンドブック』

挟む・切る・その他の事故

カミソリ、カッター、はさみなどの刃物やおもちゃでのけが 0歳~2歳くらい

【注意ポイント】

- 洗面台や風呂場にあるカミソリは使用したら、すぐに子どもの手の届かない所に保管しましょう。
- 大人や年上の子どもが文房具として使用するカッターやハサミも同様にして保管しましょう。



小さな物を鼻や耳に入れる 0歳~3歳くらい

【注意ポイント】

- ビーズやプラスチックの玉、小さなおもちゃ部品やお菓子などを鼻や耳の穴に入れて遊ぶことがあります。
- 子どもの手の届くところに小さな物を置かないようにしましょう。



テーブルなどの家具で打撲 0歳~3歳くらい

【注意ポイント】

- 転倒してテーブルなどの家具の角に顔や頭をぶつけて、けがをすることがあります。
- 角の丸い家具を選ぶ、クッションテープを取り付けるなどして、ぶつかってもけがをしないように工夫をしましょう。



ドアや窓で手や指を挟む 1歳~3歳くらい

【注意ポイント】

- ドアや窓の開閉時には、子どもが近くにいるか確認しましょう。
- ドアのちょうつがい部分に隙間防止カバーを付けるなどしましょう。
- ドアや窓は、風で急に閉まることがあるので気を付けましょう。



歯磨き中に歯ブラシでの喉突きなどの事故 1歳~6歳くらい

【注意ポイント】

- 歯磨き中は、保護者がそばで見守り、歯ブラシを口にくわえたり、手に持ったまま歩き回ったりせず、床に座らせて歯磨きをさせましょう。
- 子ども用歯ブラシは、喉突き防止カバーなどの安全対策を施したものを選びましょう。
- 歯磨き中に転倒すると、喉の奥に突き刺さり、脳まで達することもあり、大変危険です。
- 箸やフォークなど、喉突きの危険性がある日用品も、口に入れたまま歩いたり、走ったりさせないようにしましょう。



キッチン付近で包丁、ナイフでけが 1歳~6歳くらい

【注意ポイント】

- まな板に置いた包丁など、刃物を使用したらすぐに収納場所に片付けましょう。
- 収納場所の扉や引き出しにはチャイルドロックを付けるなどの工夫をしましょう。
- キッチンは危険なものがたくさんあるので、ベビーゲートなどで子どもを入れないようにしましょう。



タンスなどの家具を倒して下敷きになる 1歳~6歳くらい

【注意ポイント】

- タンスなどの家具にぶら下がったり、引き出しを開けてよじ登ったりして家具が倒れ、下敷きになることがあります。
- タンスなどの家具は固定し、引き出しや開き扉にはストッパーを付け、家具で遊ばせないようにしましょう。



ドラム式洗濯機での事故 2歳~6歳くらい

ドラム式洗濯機に子どもが入り、窒息する事故が起きています。

【注意ポイント】

- ドラム式洗濯機は、未使用時でも、蓋は必ず閉めて、チャイルドロック機能を利用しましょう。
- チャイルドロック機能がない洗濯機では、蓋にゴムバンドを掛けるなどの工夫をしましょう。



機械式立体駐車場での挟まれ事故 1歳~6歳くらい

利用者が駐車装置を操作する機械式立体駐車場で、機械に子どもが挟まれる事故が起きています。

【注意ポイント】

- 駐車装置を操作中は装置から離れず、子どもが近づかないよう注意しましょう。
- 子どもには「駐車場では遊ばない」、「装置に触らない」、「機械の中に入らない」などの注意を徹底しましょう。



自動車・自転車関連の事故

チャイルドシート未使用による事故

0歳～6歳くらい

【注意ポイント】

1. 抱っこ乗車は危険です。子どもを抱っこしたままシートベルトを締めることも危険です。
2. 短時間の乗車であっても、チャイルドシート（※ジュニアシートを含みます）を使用しましょう。
3. 6歳になるまでは、必ずチャイルドシートを使用しましょう。6歳になっても、シートベルトを適切に着用できない場合はチャイルドシートを使用しましょう。
4. チャイルドシートは取扱説明書をよく読んで、座席にしっかり取り付け、正しく使用しましょう。



車のドアやパワーウィンドウに挟まれる事故

0歳～3歳くらい

【注意ポイント】

1. 車のドアやパワーウィンドウを閉める時は、子どものそばで顔や手が出ていないか安全を確認してから閉めましょう。
2. 子どもが自分で開閉操作ができないように、ロック機能を活用しましょう。



車内での熱中症

0歳～6歳くらい

【注意ポイント】

1. 子どもだけを車内に残しておくことは大変危険です。予想外に車内温度が上昇することがあります。その結果、熱中症に陥り、死に至ることもあります。
2. 短時間でも子どもは熱中症に陥ることがあります。大人の感覚とは異なるので注意が必要です。



子ども乗せ自転車での転倒

0歳～6歳くらい

【注意ポイント】

1. 都道府県公安委員会規則により、子どもを乗せることは、6歳未満又は未就学児で、幼児用座席を設置した場合に認められています。（※都道府県により異なります）
2. 座席に乗せる前にヘルメットを着用させ、乗せた後は必ずシートベルトを確実に締めましょう。
3. 子どもを乗せたまま自転車を離れないようにしましょう。
4. 子どもを2人乗せる時は、転倒防止のため、「乗せる時は、後部座席から前部座席」、「降ろす時は、前部座席から後部座席」の順番を守りましょう。
5. 抱っこひもで子どもを前抱っこしながら運転することは道路交通法違反です。おんぶをしても走行中の死亡事故が発生しているので、できるだけ避けるようにしましょう。
6. 自転車や幼児用座席に不具合がないか、定期的にチェックしましょう。



自転車に乗せた子どもの足が後輪に巻き込まれる、スポーク外傷

0歳～5歳くらい

【注意ポイント】

1. 都道府県公安委員会規則により子どもを乗せることは、6歳未満又は未就学児で、幼児用座席を設置した場合に認められています。（※都道府県により異なります）
2. 幼児用座席を使用し、シートベルトやヘルメットを着用させましょう。
3. 幼児用座席がリコールされていないか確認しましょう。後輪へのスカート等の巻き込みを防止するドレスガードを設置すると足の巻き込み防止に有効です。

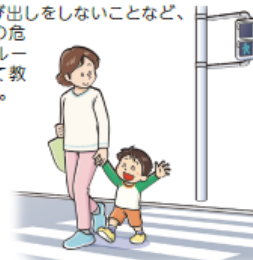


道路上などでの事故

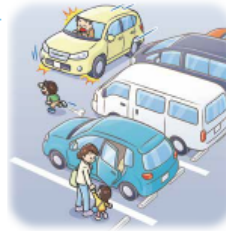
1歳以上

【注意ポイント】

1. 子どもと歩く時は、手をつなぎ、白線の内側を歩きましょう。また、歩道を歩くときは、大人が車道側を歩くようにしましょう。
2. 道路に飛び出しをしないことなど、交通事故の危険や交通ルールについて教えましょう。



3. 道路越しに子どもに声を掛けると、飛び出しの危険があるので、声を掛けないようにしましょう。
4. 駐車場はとても危険な場所です。車の乗り降りの際は特に注意を払ってください。死角も多く、飛び出す危険性もありますので、手をつないでください。



トピックス

安全な製品を選び、取扱説明書をよく読んで使用しましょう。

子どもが使う製品は、対象の月齢や年齢に合ったものを選び、取扱説明書や使用上の注意をよく読んで、正しく使用しましょう。また、安全に配慮された製品には様々なマークが付いたものがあります。マークの意味を知って、製品選びに役立てましょう。



PSCマークはProduct（製品）、Safety（安全）、Consumer（消費者）を表し、国の定めた安全基準検査に合格した製品に付いています。対象製品には、製造又は輸入業者が国の安全基準に適合しているかどうかの自己確認が義務付けられている「特別特定製品以外の特定製品」と、第三者機関の検査が義務付けられている「特別特定製品」があります。特別特定製品には乳幼児用ベッドやライターも指定されています。



SGマークは、Safe Goods（安全な製品）を表し、一般財団法人製品安全協会が定めた安全基準に適合していることを示すマークです。万が一、SGマーク付き製品に欠陥があり、それを原因として人身損害が起きた場合、賠償する制度も付加されています。SGマークの表示対象の子ども向け製品には、ベビーカー、すべり台、乳幼児用ベッド、抱っこひも、幼児用ベッドガードなどがあります。



STマークは、14歳以下の子ども向け玩具に付けられるマークで、「安全面について注意深く作られたおもちゃ」として玩具業界が推奨するものです。一般社団法人日本玩具協会が策定した玩具安全（ST）基準に適合している玩具にはSTマークが表示されています。また、STマーク付きの玩具には、対象年齢が記載されています。対象年齢が低い玩具は、喉に詰まらない大きさである、部品が外れにくい、尖った部分がない等、安全性をより配慮した設計になっています。

（出所）消費者庁「子どもを事故から守る！事故防止ハンドブック」

各種応急手当の方法

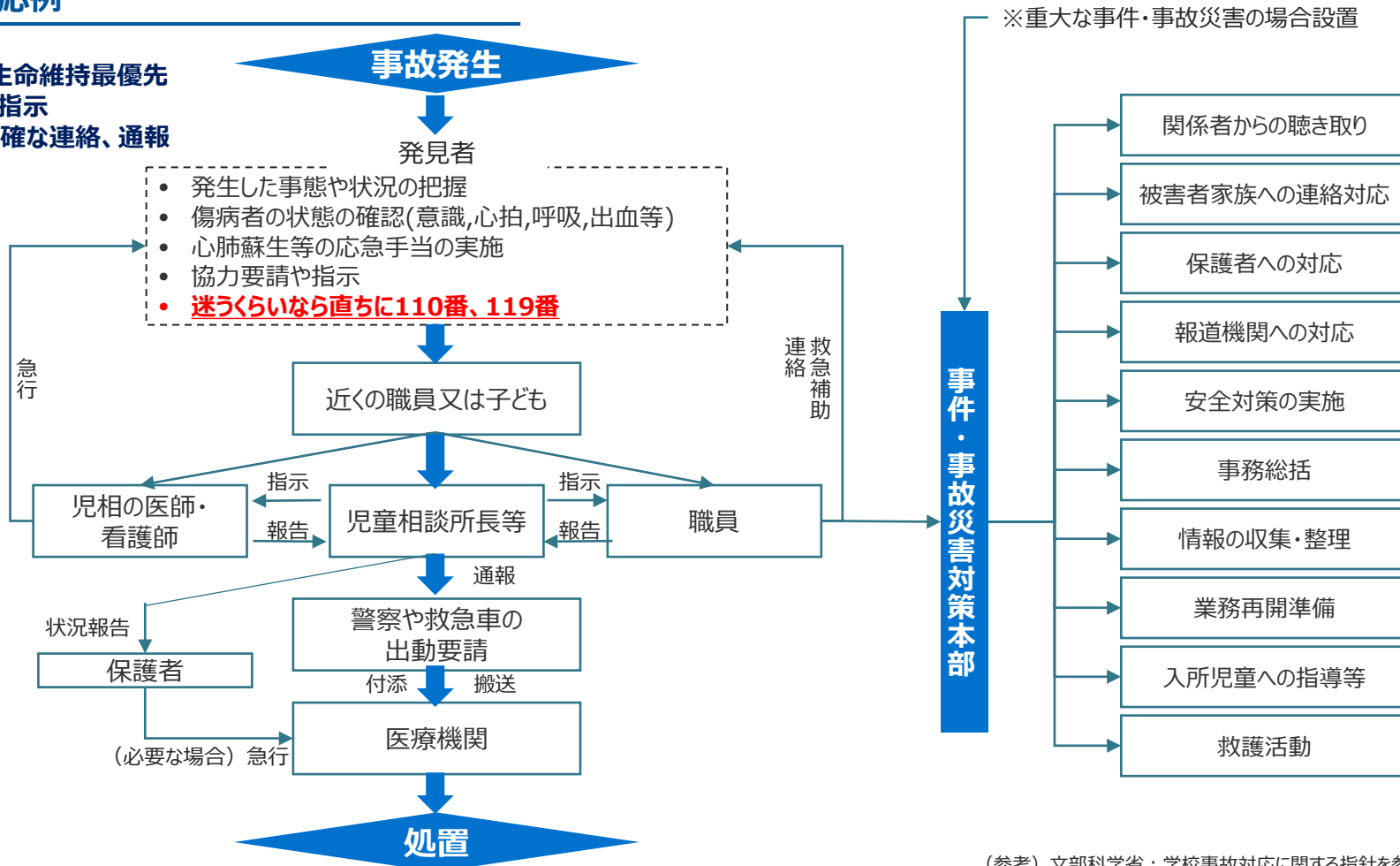
事故発生時の初動対応

- Point !**
- 入所児童に事故が発生した場合、医師や救急隊員に引き渡すまでの間に適切な手当を行う必要があります。
 - 被害児童の状況に応じて速やかな応急手当を行うことで、傷病の悪化を防ぐとともに、肉体的苦痛や精神的不安を和らげます。
 - 必要だと少しでも思ったら、迷ったら夜勤時だとしても躊躇せずに110番、119番を！**

事故発生時の対応例

<方針>

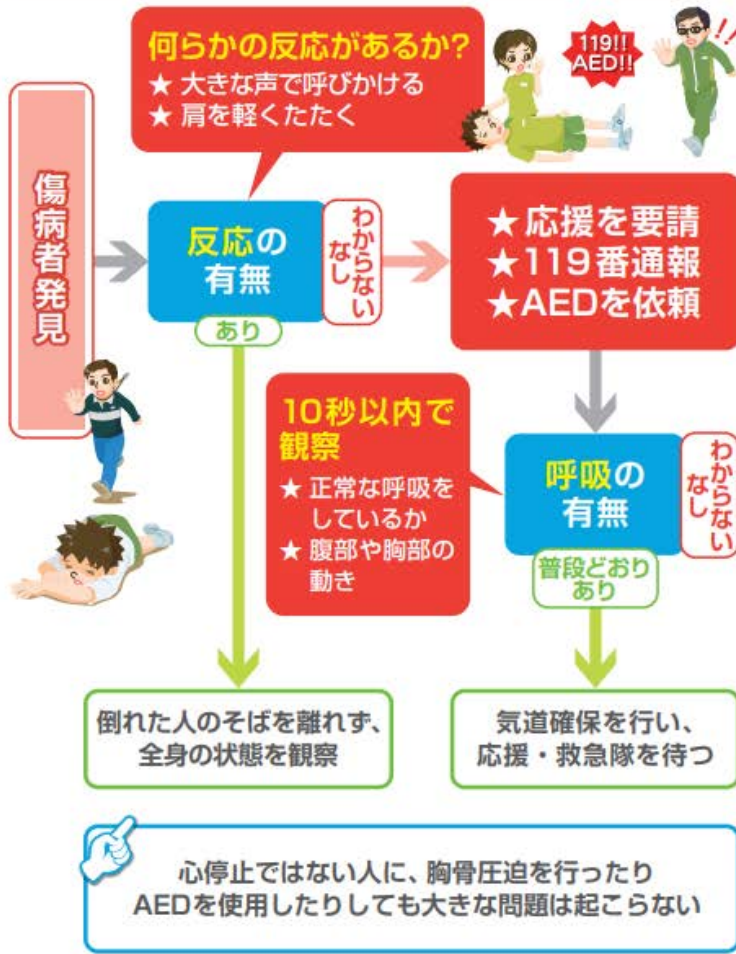
1. 子どもの安全確保、生命維持最優先
2. 冷静で的確な判断と指示
3. 適切な対処と迅速正確な連絡、通報



(参考) 文部科学省：学校事故対応に関する指針を参考に作成

心停止の救命措置

心停止の救命処置



直ちに心肺蘇生を開始

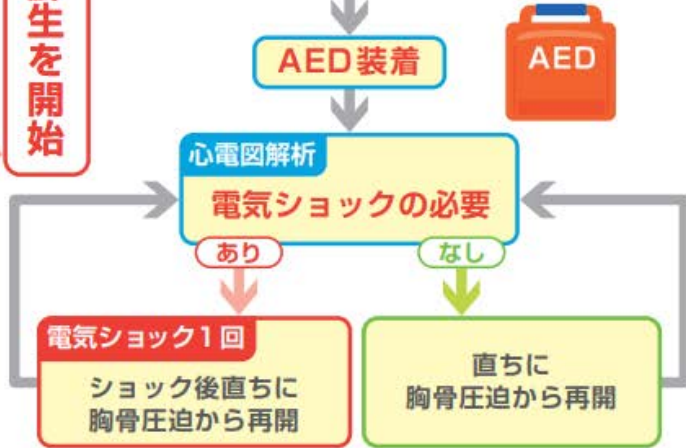
直ちに胸骨圧迫を開始

※ 水の事故(溺水)では、気道確保と人工呼吸を優先する

- 強く.....(成人は少なくとも5cm、小児は胸の厚さの約1/3)
- 速く.....(少なくとも100~120回/分)
- 絶え間なく.....(中断を最少にする)

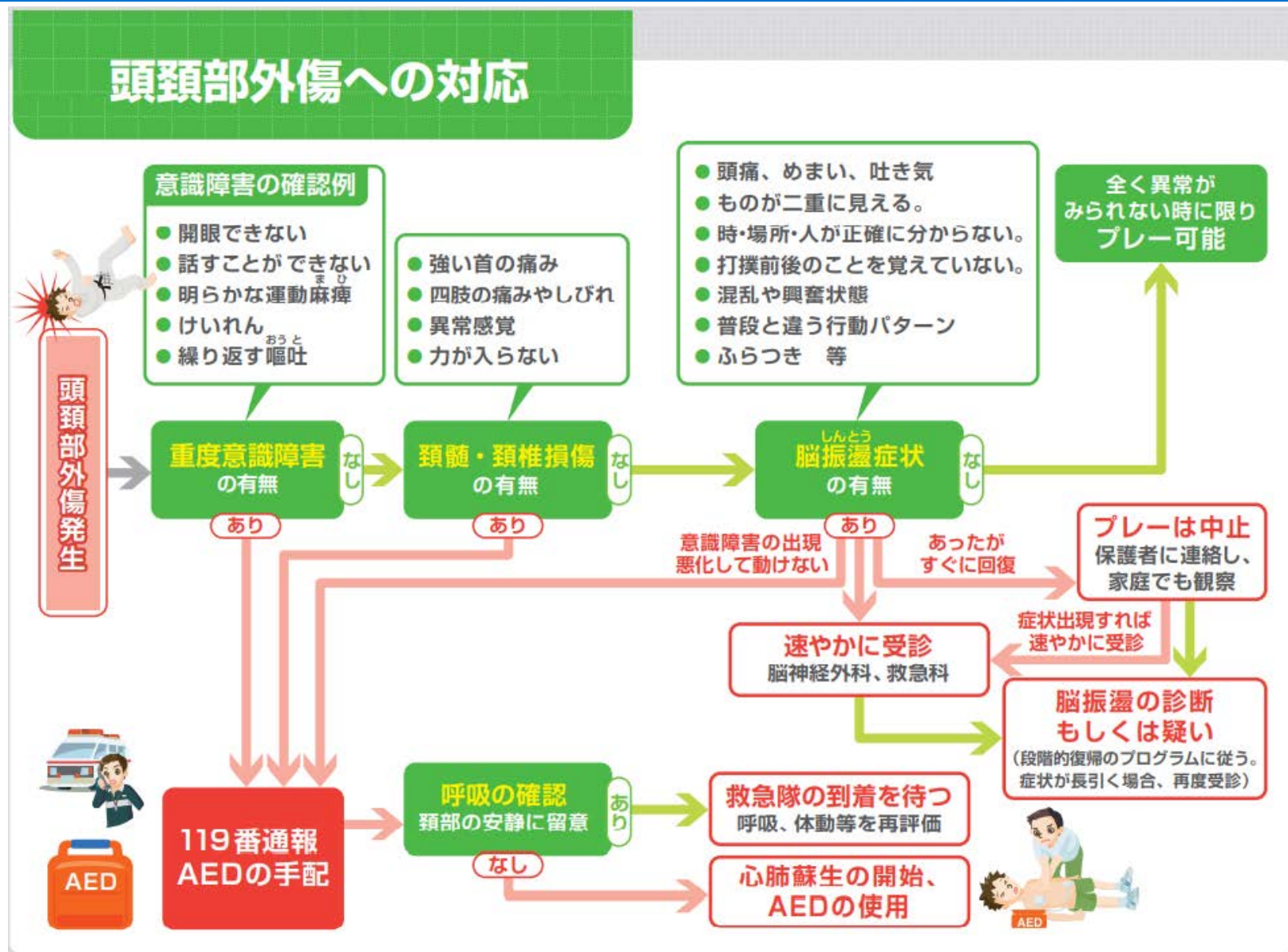
★人工呼吸ができる場合
 →胸骨圧迫：人工呼吸=30：2

★人工呼吸ができない、(感染の心配等で)ためられる場合
 →胸骨圧迫のみ

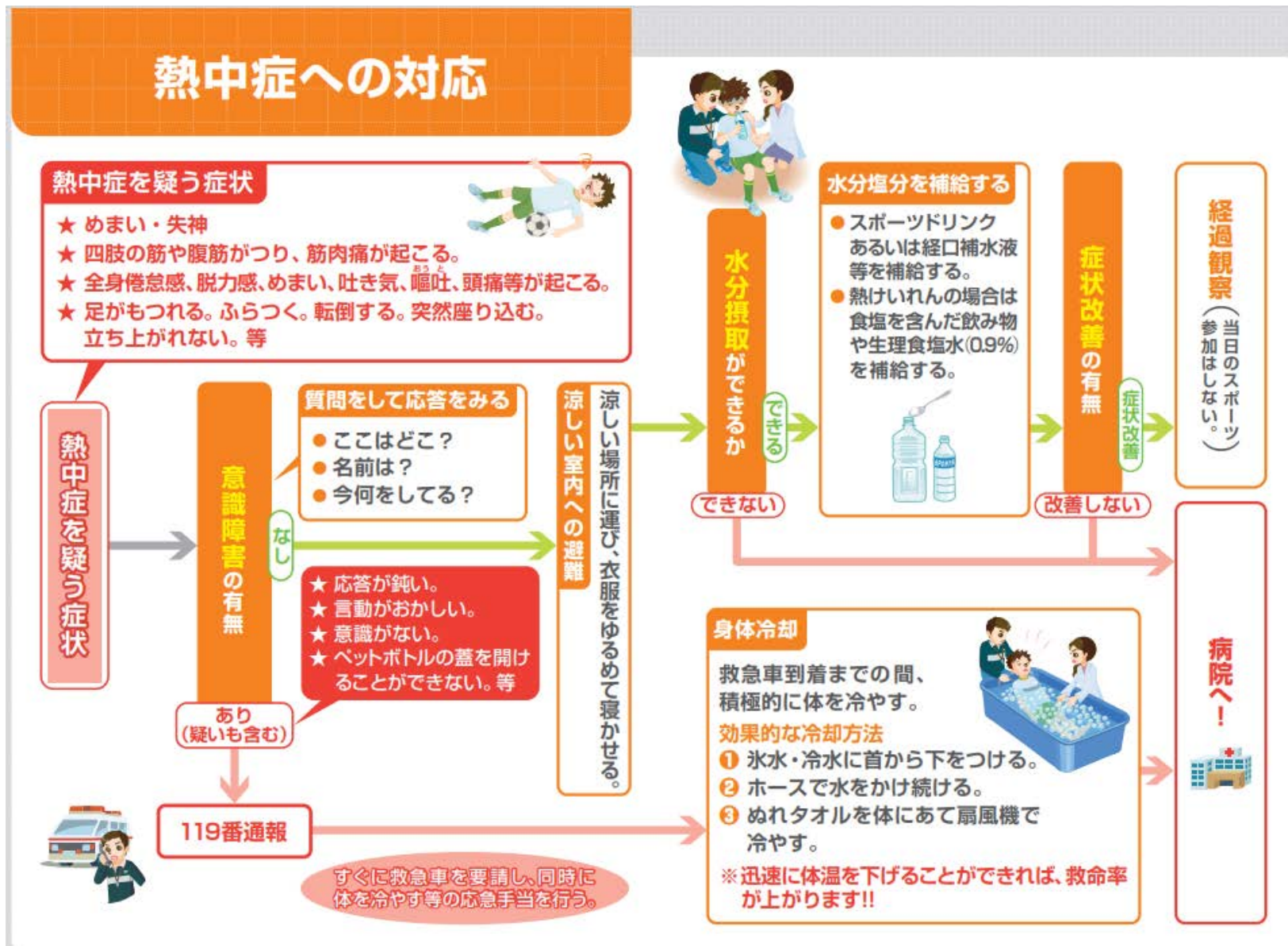


● 救急隊に引き継ぐまで
 ● 傷病者に普段どおりの呼吸や目的のある仕草が認められるまで } **続ける**

頭頸部外傷への対応

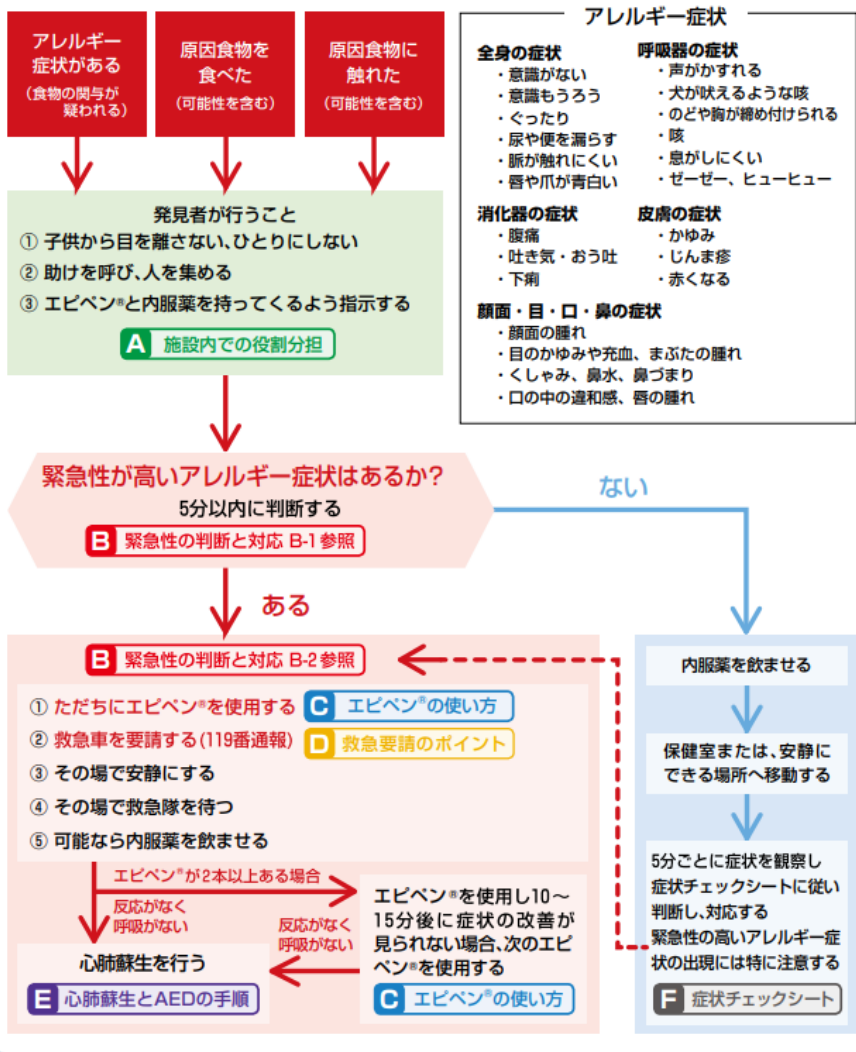


(出所) 独立行政法人日本スポーツ振興センター：スポーツ事故対応ハンドブック pp4-5



食物アレルギーへの対応

アレルギー症状への対応の手順



2022年 1月版

B

緊急性の判断と対応

- ◆アレルギー症状があったら5分以内に判断する！
- ◆迷ったらエピベン®を打つ！ただちに119番通報をする！

B-1 緊急性が高いアレルギー症状

<p>【全身の症状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> ぐったり <input type="checkbox"/> 意識もうろう <input type="checkbox"/> 尿や便を漏らす <input type="checkbox"/> 脈が触れにくいまたは不規則 <input type="checkbox"/> 唇や爪が青白い 	<p>【呼吸器の症状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> のどや胸が締め付けられる <input type="checkbox"/> 声がかすれる <input type="checkbox"/> 犬が吠えるような咳 <input type="checkbox"/> 息がしにくい <input type="checkbox"/> 持続する強い咳き込み <input type="checkbox"/> ゼーゼーする呼吸 (ぜん息発作と区別できない場合を含む) 	<p>【消化器の症状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 持続する強い(がまんできない)お腹の痛み <input type="checkbox"/> 繰り返し吐き続ける
--	--	--

1つでもあてはまる場合

ない場合

B-2 緊急性が高いアレルギー症状への対応

- ① ただちにエピベン®を使用する！
→ **C エピベン®の使い方**
- ② 救急車を要請する(119番通報)
→ **D 救急要請のポイント**
- ③ その場で安静にする(下記の体位を参照)
立たせたり、歩かせたりしない！
- ④ その場で救急隊を待つ
- ⑤ 可能なら内服薬を飲ませる

◆ エピベン®を使用し10~15分後に症状の改善が見られない場合は、次のエピベン®を使用する(2本以上ある場合)

◆ 反応がなく、呼吸がなければ心肺蘇生を行う → **E 心肺蘇生とAEDの手順**

安静を保つ体位

ぐったり、意識もうろうの場合



血圧が低下している可能性があるため仰向けで足を15~30cm高くする

吐き気、おう吐がある場合



おう吐物による窒息を防ぐため、体と顔を横に向ける

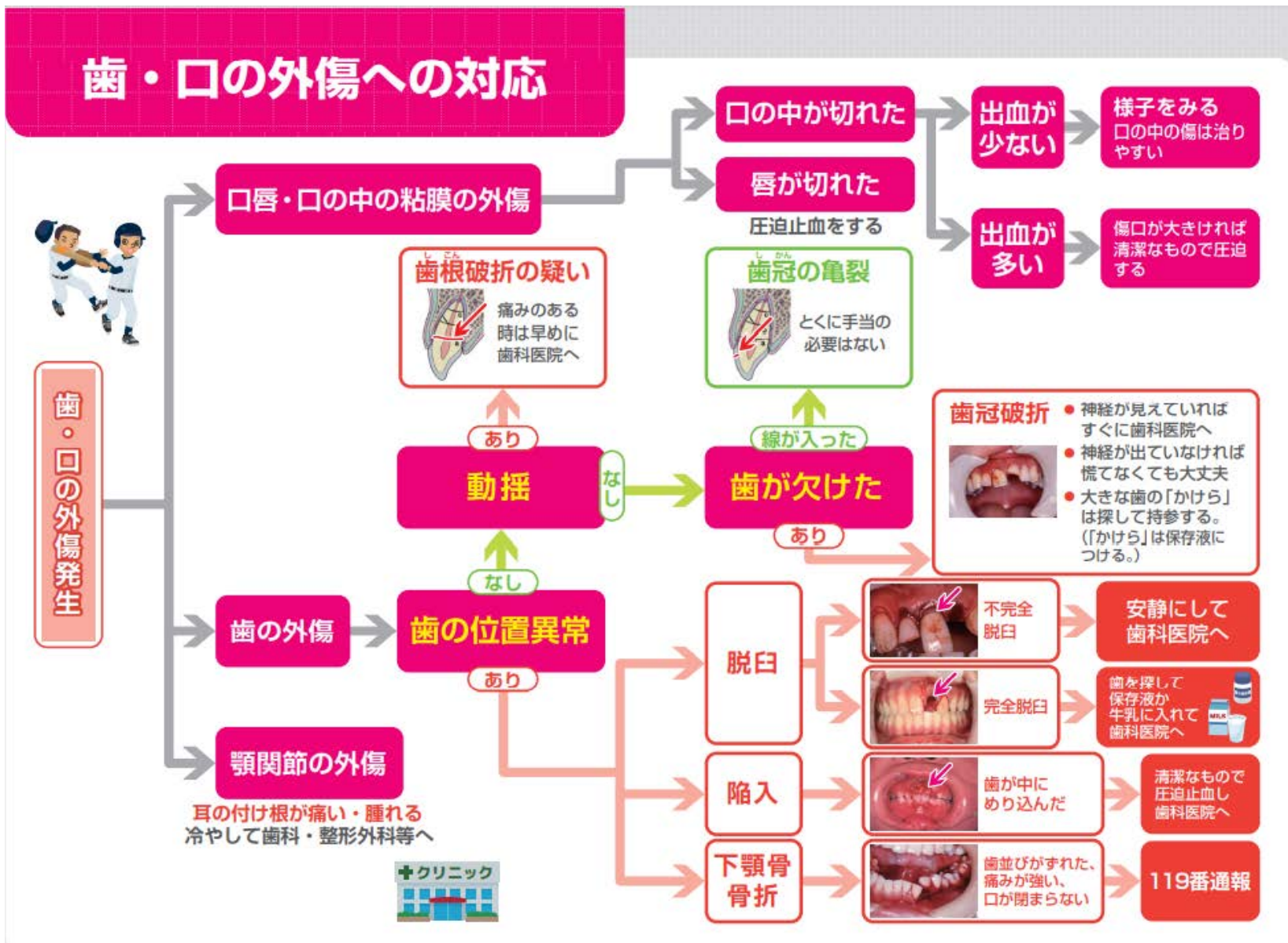
呼吸が苦しく仰向けにできない場合



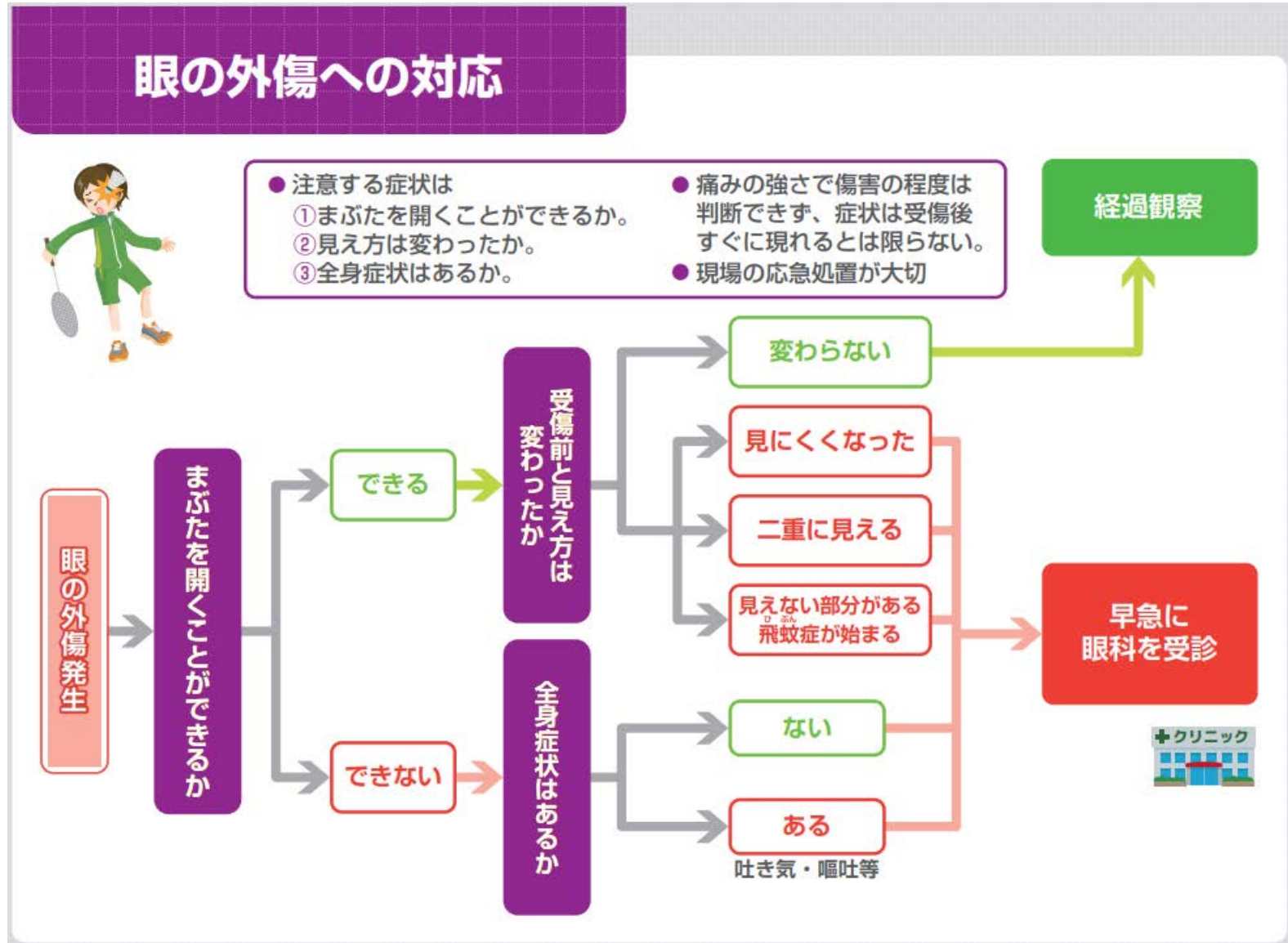
呼吸を楽にするため、上半身を起こし後ろに寄りかからせる

(出所) 東京都：食物アレルギー緊急時対応マニュアル(2022年1月版)

歯・口の外傷への対応



(出所) 独立行政法人日本スポーツ振興センター：スポーツ事故対応ハンドブック pp10-11



(出所) 独立行政法人日本スポーツ振興センター：スポーツ事故対応ハンドブック pp12-13

異物を飲み込んだときの対応

★ 異物を飲み込み喉に詰まってしまった時

119番通報を誰かに頼み、直ちに以下の方法で詰まった物の除去を試みます。

1歳以上の幼児には、まず「背部叩打法」(図1)を行い、異物が除去できなかった場合は「腹部突き上げ法」(図2)を行います。

1歳未満の乳児には、「背部叩打法」(図3)と「胸部突き上げ法」(図4)を数回ずつ交互に行いましょう。意識がない場合は、心肺蘇生を行います。

<背部叩打法(はいぶこうだほう)>

幼児は子どもの後ろから片手を脇の下に入れて、胸と下あご部分を支えて突き出し、あごをそらせます。片手の付け根で両側の肩甲骨の間を強く迅速に叩きます(図1)。乳児は片腕にうつぶせに乗せ顔を支えて、頭を低くして、背中の中を平手で何度も連続して叩きます(図3)。

<胸部突き上げ法(きょうぶつきあげほう)>

片手で体を支え、手の平で後頭部をしっかり支えます。心肺蘇生法の胸部圧迫と同じやり方で圧迫しましょう(図4)。

<腹部突き上げ法(ふくぶつきあげほう)>

幼児は、後ろから両腕を回し、みぞおちの下で片方の手を握り拳にして、腹部を上方へ圧迫します(図2)。



図1:背部叩打法(幼児)



図2:腹部突き上げ法(幼児)



図3:背部叩打法(乳児)



図4:胸部突き上げ法(乳児)

誤飲対処早見表

飲んだものによって、緊急性の高いものや吐かせてはいけないものがあります。

症状	救急車を呼ぶ場合	<ul style="list-style-type: none"> ■ 苦しそうな呼吸 ■ 窒息・顔色が青白い ■ けいれん ■ ぐったりしてよびかけてもぼんやりしている
	急いで受診 (このような場合は救急車でも)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 突然咳き込み始めた ■ 声がかすれている ■ ゼーゼー、ヒューヒューした呼吸 ■ 吐く、下痢、腹痛など

基本的には、**吐かせずに、同じものを病院に持参して受診しましょう!**

応急手当が分からないときや受診の必要性は、医療機関や子ども医療電話#8000に相談しましょう。

飲んだもの	救急車を呼ぶ場合	◆ 灯油、ベンジン、除光液、農薬、殺虫剤、ネズミ駆除剤
	急いで受診 (症状がなくても)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ ボタン電池 ◆ 鋭利な異物(ヘアピン、針など) ◆ 磁石 ◆ 洗剤(トイレ用スタンプ、液体洗剤)・吸水性樹脂・水で膨らむビーズ・芳香剤・消臭剤・防虫剤・漂白剤 ◆ たばこ(吐かせる) ◆ 薬(お薬手帳があれば持参) ◆ コインやおもちゃ等
	家で様子を見る 診療時間内に受診	◆ 少量のインク、クレヨン、絵の具、粘土、化粧品(口紅・ファンデーション)、石けん (心配な場合は電話などで相談)

■ (公財)日本中毒情報センター 中毒110番 ■

化学物質(たばこ、家庭用品など)、医薬品、動植物の毒などによる中毒事故が実際に起きて、どう対処したらよいか迷った場合は相談してください。

- ◆ 大阪中毒110番(24時間対応) ☎ 072-727-2499
- ◆ つくば中毒110番(9時~21時対応) ☎ 029-852-9999

打撲・ねんざの対応（RICE処置）

1.Rest（安静）



- 損傷部位の腫脹（はれ）や血管・神経の損傷を防ぐことが目的です。
- 副子やテーピングにて、損傷部位を固定します。

3.Compression（圧迫）



- 患部の内出血や腫脹を防ぐことが目的です。
- スポンジやテーピングパッドを腫脹が予想される部位にあて、テーピングや弾性包帯で軽く圧迫気味に固定します。

2.Ice（冷却）



- 二次性の低酸素障害による細胞壊死と腫脹を抑えることが目的です。
- ビニール袋やアイスバッグに氷を入れて、患部を冷却します。
- 15～20分冷却したら（患部の感覚が無くなった）はずし、また痛みが出てきたら冷やします。
- これを繰り返します（1～3日）

4.Elevation（挙上）

腫脹を防ぐことと腫脹の軽減を図ることが目的です。
損傷部位を心臓より高く挙げるようにします。

心臓より上に患部をあげて、Elevationを続けます



(出所) 公益社団法人日本整形外科学会『スポーツ外傷の応急処置』
([https://www.joa.or.jp/public/sick/condition/athletic_injury.html#:~:text=%E3%81%AB%E3%81%97%E3%81%97%E3%82%87%E3%81%86%E3%80%82-,RICE%E5%87%A6%E7%BD%AE,\(Elevation\)%E3%81%8C%E5%9F%BA%E6%9C%AC%E3%81%A7%E3%81%99%E3%80%82](https://www.joa.or.jp/public/sick/condition/athletic_injury.html#:~:text=%E3%81%AB%E3%81%97%E3%81%97%E3%82%87%E3%81%86%E3%80%82-,RICE%E5%87%A6%E7%BD%AE,(Elevation)%E3%81%8C%E5%9F%BA%E6%9C%AC%E3%81%A7%E3%81%99%E3%80%82)) 2023.02.13閲覧

出血・火傷の対応

擦り傷・刺し傷・切り傷

- いずれの傷も軽度であれば流水で洗い流し、消毒し、傷口にガーゼなどを当て押さえて止血します。
- 傷が深い、出血が止まらない、傷口に砂や土、異物が付着していたりすると感染症や破傷風を発症することもあるため、医療機関を受診します。
- 出血を伴う傷はゴム手袋を使用するか、ビニール袋を活用するなどし、直接血液に触れないようにします。

鼻血

- 興奮すると血圧が上がり、出血が止まらなくなるため、子どもを落ち着かせます。
- 深呼吸をさせ、座った姿勢を取らせます。
- 親指と人差し指で小鼻を5～10分つまんで押さえます。このとき顔は上を向かず、やや下向きにします。
- 多量の出血や止血できない場合は動脈からの出血も考えられるため医療機関を受診します。

(参考) 渡邊 正樹：学校安全と危機管理 三訂版、大修館書店、2020、pp213-214

火傷

★ やけどをしてしまった時

やけどをしてしまったら、すぐに10分以上冷やしましょう。刺激を避けるため、容器に溜めた水で冷やすか、水道水・シャワーを直接当てないようにしましょう。服の上から熱湯などがかった場合は、脱がさずに服の上から冷やしてください。

- 全身の広い範囲・顔面などのやけどの場合：
すぐに救急車を呼びましょう。
- やけどの範囲が片足、片腕以上の広範囲にわたる場合：
救急車を呼ぶか、至急病院を受診しましょう。
- やけどの範囲が手のひら以上の場合や水膨れの場合：
潰さないようにして、病院を受診しましょう。

なお、市販の冷却シートは、やけどの手当てには使えません。電気カーペットなどによる低温やけどは、見た目より重症の場合がありますので、症状が悪化したり、子どもが痛がるが続いたりなどした場合には病院を受診しましょう。



(出所) 消費者庁『子どもを事故から守る！事故防止ハンドブック』p15

救急要請のポイント

D 救急要請 (119番通報) のポイント

◆あわてず、ゆっくり、正確に情報を伝える



①救急であることを伝える

119番、火事ですか？
救急ですか？

救急です。

②救急車に来てほしい住所を伝える

住所はどこですか？

○区(市町村)○町
○丁目○番○号
○〇保育園
(幼稚園、学校名)です。

住所、施設名をあらかじめ記載しておく

③「いつ、だれが、どうして、現在どのような状態なのか」をわかる範囲で伝える

エビベン®の処方やエビベン®の使用の有無を伝える

どうしましたか？

5歳の園児が給食を食べたあと、呼吸が苦しいと言っています。

④通報している人の氏名と連絡先を伝える

119番通報後も連絡可能な電話番号を伝える

あなたの名前と連絡先を教えてください

私の名前は
○×□英です。
電話番号は…

- ※向かっている救急隊から、その後の状態確認等のため電話がかかってくることもある
- ・通報時に伝えた連絡先の電話は、常につながらないようにしておく
 - ・その際、救急隊が到着するまでの応急手当の方法などを必要に応じて聞く

(参考) 状況の共有のコツ

- ・要領よく、わかりやすく状況を共有し、伝達するコツとして、チーム医療の現場などで使われている「SBAR」が参考になります。
- ・状況 (S)、背景 (B)、評価 (A)、提案 (R)の4項目を伝えることを意識し、最低限でもSとRをセットにして伝えることを意識すると良いでしょう。

Situation(状況) どういう状況か、何が生じたのか

Background(背景) そういう状況の生じる背景として思い当たることは何か

Assessment(評価) どのような理由でそのような状況が生じたと思うか

Recommendation (提案) 相手に期待すること・してもらいたいことは何か

(出所) 東京都：食物アレルギー緊急時対応マニュアル(2022年1月版)

- ・ 渡邊 正樹：学校安全と危機管理 三訂版.大修館書店.2020
- ・ 消費者庁「子どもを事故から守る！事故防止ハンドブック」
- ・ 文部科学省「学校事故対応に関する指針」
- ・ 独立行政法人日本スポーツ振興センター「スポーツ事故対応ハンドブック」
- ・ 東京都：食物アレルギー緊急時対応マニュアル(2022年1月版)
- ・ 公益社団法人日本整形外科学会『スポーツ外傷の応急処置』
([https://www.joa.or.jp/public/sick/condition/athletic_injury.html#:~:text=%E3%81%AB%E3%81%97%E3%81%BE%E3%81%97%E3%82%87%E3%81%86%E3%80%82-,RICE%E5%87%A6%E7%BD%AE,\(Elevation\)%E3%81%8C%E5%9F%BA%E6%9C%AC%E3%81%A7%E3%81%99%E3%80%82](https://www.joa.or.jp/public/sick/condition/athletic_injury.html#:~:text=%E3%81%AB%E3%81%97%E3%81%BE%E3%81%97%E3%82%87%E3%81%86%E3%80%82-,RICE%E5%87%A6%E7%BD%AE,(Elevation)%E3%81%8C%E5%9F%BA%E6%9C%AC%E3%81%A7%E3%81%99%E3%80%82)) 2023.02.13閲覧